

齋藤経団連副会長， ご出席の皆様，

本日は，このような記念すべきシンポジウムにお招きいただきありがとうございます。

OECD は 1961 年の発足以降，国際社会の発展に多いに貢献してきました。私自身も、かつて、大蔵省勤務時代に英国大蔵省に出向し、OECD の金融作業部会に英国代表として 2 年間参加していたことがあり、グローバルスタンダード設定における OECD の重要性を肌身に感じてきた一人であります。ピアレビューなどを通じて、各国の改革を進めていく力を実感しております。

その OECD に我が国は、1964 年、東京オリンピックが開催された年に加盟を果たしました。本年 2014 年は、加盟以来 50 周年を迎える節目の年であるとともに、閣僚理事会において我が国が議事国を務める重要な年となります。

政府としては、加盟 50 周年を機に、様々な取組を進めておりますが、経団連におかれましても、これまで BIAC を通じて OECD の活動に一貫して関与してきて頂きましたが、今般、OECD 諮問委員会を中心に「グローバル化時代の OECD のあり方に関する提言」をとりまとめ、先般齋藤副会長から岸田外務大臣に手交いただきました。

積極的な取組に、心から感謝申し上げます。

来週予定されているグリア事務総長の訪日及び 5 月の閣僚理事会に向けて、経済界のご協力も仰ぎつつ、このモメンタムを更に高めていきたいと思っております。

さて、我が国が、半世紀前に OECD に加盟した意義は 3 点あります。第一は名実ともに先進国の仲間入りを果たしたという歴史的意義。

第二は加盟を契機に国内の改革が促進されるようになったこと。OECD 加盟によって資本自由化が求められた中で、現場の最前線で汗をかき、現在の我が国の繁栄を築いていただきましたのは経団連を始め経済界の皆様であります。改めて敬意を表したいと思います。

そして、第三の意義は、開発、貿易、税、労働などの分野において、OECD を通じ国際社会の課題の解決に向けた貢献を開始したことです。

こうした意義は、50 周年の今日においても色褪せるものではありません。例えば、第二の「改革の促進」という面においては、現在、安倍政権の下で成長戦略に取り組んでいます。OECD が有する多くの客観的データや他国の改革事例などの活用は、我が国における構造改革の推進にとって依然有意義であります。

一方で、この 50 年の間に、冷戦の崩壊、新興国の台頭、世界経済危機、G20 の登場などを経て、国際社会の構図は大きく変化しました。OECD 自身も変化に対応して、加盟国を拡大してきましたが、その取組や役割には更なる進化が求められています。

その意味で、本日のシンポジウムの二つのテーマは、時宜を得たものです。

第一のテーマである、「OECD ルールと公平な競争条件の確保」については、新興国の影響力・存在感が高まる中、非加盟国に対するアウトリーチ活動を通じた公平な競争

条件を構築するとの問題意識に立っています。

この点、我が国は、G20 のメンバーであるとともに、成長著しい東南アジア諸国と歴史的に良好な関係を築いており、先般、斎藤副会長より岸田大臣に手交いただいた提言書にもあります「OECD とアジアとを双方向でつなぐ橋渡し役」として貢献することができると確信しております。

その意味で、日本が議長国を務める本年は、OECD と東南アジアの関係強化を進める絶好の機会であり、本年の閣僚理事会でも、「東南アジアとの関係強化」をテーマの一つとして取り上げ、「東南アジア地域プログラム」を立ち上げる予定です。

第二のテーマである「貿易の自由化促進と OECD の役割」については、OECD において、貿易の自由化を促すグローバル・バリュー・チェーン（GVC）の発展や、それを客観的に把握するための付加価値貿易（TiVA、ティーバ）データ・ベースの研究を進めており、このデータ・ベースの構築には、日本が長年貢献してきました。

我が国としては、TiVA（ティーバ）のデータ・ベースを有効に活用することで、新興国・途上国に対してグローバル・バリュー・チェーンに参加するメリットを提示し、貿易投資環境整備を促していくことによって、世界規模の貿易の自由化の促進や多国間貿易体制を強化していきたいと考えています。

グローバル化が進展する中、「世界最大のシンクタンク」とよばれる OECD は、経済的な存在感を増す非加盟国との協力を進めつつ、また G20 などのグローバルな経済フォーラムでの議論に貢献することが求められています。その中

で、我が国には、健康、医療、防災、エネルギーなどの課題解決先進国として、OECD を通じたベストプラクティス普及やルール策定への関与がますます求められています。

そのためにも、グローバル化の最前線に立つ経済界の皆様、BIAC を通じて OECD との対話を更に強化して頂くことは大変有意義であり、経団連の皆様による一層の貢献をお願いし、私の挨拶に代えさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

(了)